

団体名		公益財団法人武蔵野市国際交流協会				
① 事業	指標名	在住外国人支援事業への外国籍市民参加促進			目標値	外国人支援事業への外国人の参加者拡大（対前年度増）
	過去の実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	（過去の実績についての説明）	
	（単位：人）	1,559	749	857	MIA外国人支援事業にかかる外国人の延べ参加者数	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針（平成21年2月改正）の具体的な取組の該当項目			(2) 事業評価の導入と事務事業の見直し		
	設定理由等	新型コロナウイルスの全国的な流行の影響で外国籍市民支援事業の需要はより高まっている。ニーズに応え参加者を拡大することで、多文化への理解を深め、支援内容のさらなる強化につなげるため。				
	取組内容	(1) 支援事業をZOOMを取り入れたリモート参加及び現場開催を併用した「ハイブリッド方式」で実施し、コロナ禍においても参加しやすい環境を整える。 (2) 日本語教室など（保育含む）現場開催のニーズが高いものに応えるため、より広い会場での開催を行う。 (3) 市が実施予定の「多文化共生推進プラン（仮称）」策定に協力するとともに、MIAの活動に関心を持ってもらえるよう工夫する。				
② 財務	指標名	収支相償の適正化			目標値	公益目的事業の収支差額を0円に近づける
	過去の実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	（過去の実績についての説明）	
	（単位：千円）	-1,000	2,395	231	収支相償の適正化が公益認定委員会より指摘されていた	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針（平成21年2月改正）の具体的な取組の該当項目			(1) 経営健全化の確保		
	設定理由等	公益認定の維持に、毎年度ごとの決算における収支相償の適正化を図る必要があるため。				
	取組内容	(1) 公益目的事業会計における収支相償の中長期的な適正化を図るため収支バランスを注視し、予算編成及び予算執行を計画的に行うとともに、交付申請額等を精査する。 (2) 大幅な収支差額の黒字が生じた場合は補助金の清算を行う。				
③ 内部 部 管 理	指標名	MIA事業へのボランティアの参加促進			目標値	ボランティア登録者数の拡大（対前年度増）
	過去の実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	（過去の実績についての説明）	
	（単位：人）	370	268	253	語学ボランティア、日本語交流員、留学生ファミリーの合計	
	財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針（平成21年2月改正）の具体的な取組の該当項目					
	設定理由等	MIAの事業は、会員ボランティアが運営を担っており、職員はそのコーディネートを行っている。限られた職員数で充実した事業を行うためには多様なボランティア人材の活用が必要のため。				
	取組内容	(1) ボランティア説明会とボランティア養成講座を開催し、新規ボランティアの登録者数を増やす。 (2) 説明会、講座ともに対面及びリモートによる実施などを取り入れ、ボランティアが参加しやすい環境を整える。				